



新年あけましておめでとうございます。

浜松北病院は本年3月で開設43年を迎えます。これまで長きにわたり地域の皆さんに医療を提供し続けることができましたのは、ひとえに皆さまの温かいご支援とご理解の賜物であり、心より感謝申し上げます。

近年、全国的に病院経営を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。人口減少や医療需要の変化、診療報酬改定、人材確保の難しさなど、医療機関が抱える課題は多岐にわたります。当院も例外ではなく、限られた資源の中でいかに質の高い医療を継続していくかが、日々の大きなテーマとなっています。そのような中にあっても、職員一人ひとりが患者さんに寄り添う姿勢を大切にし、日々の業務に真摯に取り組んでいることを大変誇りに思います。医師・看護師・コメディカル・事務職員が互いに支え合い、困難を前向きに捉えて努力する姿こそが、当院の大きな力となっています。

私たちは「すべての患者と家族のために」という基本理念を改めて胸に刻み、地域の皆さんから信頼され、選ばれる病院であり続けるよう努めてまいります。そのために、市内の医療機関や介護・福祉施設、行政との連携を一層強化し、切れ目のない医療・介護サービスの提供に取り組んでまいります。

また、病院の活力を高めるためには病床稼働率の向上が欠かせません。ベッドを有効に活用し、安全で円滑な受け入れ体制を整えることは、経営の安定と地域医療への貢献の両面で重要な取り組みです。全職員が一丸となって連携と工夫を重ね、よりよい病院運営を進めてまいります。

本年も、職員全員が共通の目標を持ち、互いを尊重しながら力を合わせることで、地域の皆さんに安心と信頼をお届けできる病院を目指してまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

法人本部 本部長 鈴木祥仁



十三里

今年は久しぶりに秋らしい秋を感じましたが、11月になった途端、寒さが身に染みるようになりました。皆さんがこれを読む頃は、ばたばたした師走？のんびりとしたお正月でしょうか？お節料理の準備をされている方もいるかも知れませんね。お節料理を全て手作りで…という方は昔に比べ減ったとは思いますが、それでも手間のかかるお料理。年末のやり残した仕事と並行しながら作るのは大変です。

私の幼い頃も母が重箱に料理を詰めておりました。私的には好きな物がほぼありませんでしたから、あまり良い思い出はありませんが、大人になるにつれ、食べられる物、好きな物が増えてきたのは幸いです。

色とりどりのお節の中身…田作り（子孫繁栄）・海老（長寿）・鯛（めでたい）・黒豆（マメに生きる）等、“ゲン担ぎ”、“言葉遊び”であふれているのは御存じかと思います。今のお節の原型が出来上がったのは江戸時代のようでして、家族の幸せを祈りながら重箱に詰める当時の人を想うと、なにか温かい気持ちになりますね。

言葉遊びと言えば、皆さん“十三里”という食べ物をご存知でしょうか？ヒントは江戸時代に外国から伝來した甘い作物です。『栗（9里）より（4里）甘い13里（9+4里=13里）』答えは“サツマ芋”です。当時の人の粋なセンスに関心してしまいます。このサツマ芋ですが冬のおやつには最高なのです。上手に焼いた芋は、食物繊維・ビタミンC・ビタミンB群豊富で、整腸作用・美肌・疲労回復が期待できます。しかし食べ過ぎ…特に糖質制限のある方は御注意を。最近は、用途・嗜好で使い分けできる程、多くの種類出回っています。お勧めの食べ方としては“焼くなら低温でじっくり”、“皮ごと食べる”、“冷やして食べる”がお勧めです。冷やす事で澱粉が“難消化体澱粉”に変化し、糖の吸収が緩やかになります。昔にならい、ゲンを担ぎ、身体が必要としている物を食べ、良い年をお迎えください。

管理栄養士 青山

〒431-3113

静岡県浜松市中央区大瀬町1568

TEL (053)-435-1111

FAX (053)-433-2700

Webページはこちら(QRコード) >>



翔 き は ば た



No.80 新年号



理事長退任慰労会

感謝とねぎらいの気持ちを込めて、笑顔の一枚。



浜松北病院

基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実践する



新年のごあいさつ

医療法人社団 盛翔会
浜松北病院

理事長 兼 院長
竹内 和彦



新年あけましておめでとうございます。旧年中は、浜松北病院の運営にあたり、地域の皆さまから多くの温かいご理解とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

私たちの暮らすこの地域では、ひとり暮らしの高齢者やご高齢のご夫婦のみで生活されている世帯が増えています。また、認知症の方や、退院後の生活に不安を抱える方をどのように支えていくかが、地域全体の重要な課題となっています。こうした社会の変化を背景に、医療と介護が離れずにつながり、誰もが人生の最期まで安心して生活を続けられる地域づくりが求められています。その役割の一端を担うため、当院では病床機能の整備を進めてまいりました。昨年11月には地域包括ケア病床を35床から54床へ、一昨年10月には回復期リハビリテーション病床を32床から60床へと増床いたしました。これらの病床は、治療がひと段落した後に、すぐに自宅・施設に戻ることが難しい方が、退院後の生活に向けた準備を進めるための病床です。リハビリ、療養調整、介護支援、在宅医療や施設との連携など、患者さんとご家族が新しい生活へ踏み出すための支援を行っています。

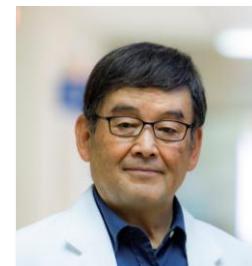
私たちは「病気を治す」だけではなく、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしが続けられるよう支える医療を大切にしています。浜松北病院は、地域の診療所、訪問看護事業所、介護サービス事業所、行政などと連携し、医療と介護をつなぐ役割を今後も担ってまいります。

地域にお住まいの皆さんにとって、当院が「困ったときに気軽に相談できる場所」でありたいと願っております。体調のことでの不安があるとき、家族の介護で悩まれたとき、退院後の生活に迷われたときには、どうぞ遠慮なくご相談ください。私たちは、地域で暮らす皆さまの安心の土台となる医療機関として、誠心誠意努めてまいります。

本年が皆さんにとって健やかで穏やかな一年となりますよう心より祈念するとともに、これからも地域とともに歩む病院として、一層の努力を続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

医療法人社団 盛翔会
浜松北病院

相談役 兼 特別顧問
澤田 健



皆さん新年おめでとうございます。

私は昨年5月31日をもって竹内理事長兼院長に医療法人盛翔会のかじ取りを託し役職定年退職いたしました。長い間ご支援ご協力ありがとうございました。

今後も外来診療を今まで通り継続して微力ながら通院される患者さんのため盛翔会浜松北病院のために尽力させていただく所存です。

40年の長きにわたる勤務中には山あり谷ありの色々な出来事がありました。その間、本当に病院存続の危機が何度かありましたが多くの方に助けられてなんとかのりきってまいりました。

少子高齢化の進行する中、国民皆保険制度下での医療病院造りを職員の皆さんとともに努力してやってまいりました。どんな時も医療の基本は弱者である患者さんへのあたたかな思いやりで時に医療者は己を顧みない努力をも必要とされる厳しいものです。

そして継続した努力が評価され強固な信頼関係が構築され初めて存在価値のある病院と評価されます。40年間一緒に働いてみて浜松北病院のすべての職員はその資質を持ち合わせ実践しているものと確信します。

少子高齢化社会のもとの国民皆保険制度ではその財源難は避けられませんのでそれを補てんする特別財源は別枠で確保するとして消費税が導入されました。

現在、多くの病院が赤字経営に陥っているようですが医療福祉介護は国民生活の原点であり最も健全に運用されるべき社会インフラでは是非でも守られなくてはなりません。

日本も初の女性総理を選出し政治的に多くの難問に立ち向かう準備はできましたので大いに期待したいと思います。

今年も皆さんにとって良い年になりますように祈ります。